

科目コード	20305		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	次世代教育学 [教育経営学科用]		担当者名	畠中要輔/鈺悠介/大野呂浩志/小川智勢子/濱嶋幸司/渡邊亮/竹下厚志/伊藤仁美			○		
			実務経験との関連	担当者の中でアナウンサー、特別支援学校教員、小学校教員、高等学校教員、舞台俳優としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	1	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育をになう「教師」育成のために、学校教育の現代的課題に焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察することを目的とし、学修成果として、教職に対する理解を深めることができるようになります。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な資質能力を身につけるために、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識を常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目標とします。

<授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。
 ※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

<教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要、教育経営学科プロジェクト「スクールフェス」について
2	次世代教育を考える 1	授業、先生について考えてみよう（理想の教師、楽しい授業）
3	次世代教育を考える 2	自分達の体験してきていない学校を見てみよう
4	次世代教育を考える 3	授業案を考えてみよう（自由な発想、学びについて）
5	次世代教育を考える 4	チーム決め、夢の授業、探求学習授業の作り方
6	次世代教育を考える 5	チームビルディング、自分の探究したい学びとは
7	学校現場を学ぶ 1	小学校見学事前講座
8	学校現場を学ぶ 2	小学校見学事前講座
9	学校現場を学ぶ	小学校見学
10	学校現場を学ぶ 4	小学校見学の振り返り、模擬授業について
11	授業を経験する 1	模擬授業 1 授業準備
12	授業を経験する 2	模擬授業 2 模擬授業実施
13	授業を経験する 3	模擬授業の振り返り、本番指導案づくり
14	スクールフェス授業作り 1	授業案チームプレゼン
15	スクールフェス授業作り 2	振り返り、本番指導案づくり、備品購入についてチームで計画を立てる
16	スクールフェス模擬授業 1	スクールフェス 模擬授業準備
17	スクールフェス模擬授業 2	スクールフェス 模擬授業
18	スクールフェス模擬授業 3	スクールフェス 模擬授業
19	スクールフェス 1	スクールフェス準備
20	スクールフェス 2	スクールフェス振り返り
21	地域課題探求 1	地域課題探求
22	地域課題探求 2	地域課題探求発表
23	表現教育	表現教育ワークショップ
24	表現教育	表現教育ワークショップ
25	表現教育	表現教育ワークショップ
26	表現教育	表現教育ワークショップ
27	表現教育	表現教育ワークショップ
28	表現教育	表現教育ワークショップ
29	表現教育	表現教育ワークショップ
30	表現教育	表現教育ワークショップ

科目コード	22202	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	社会の理解	担当者名	鉦 悠介			○			
		実務経験との関連	独立行政法人特別支援教育に関する研究所の研究補佐員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方をを用いた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りや課題40%、試験60%により総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省
小学校学習指導要領解説社会編
日本文教出版社
北 俊夫 他 編
新編 新しい社会3年～6年
東京書籍

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	社会科を学ぶ意義（オリエンテーション）求められる初等社会科教育（1）	授業の概要（目的や内容、成績評価等）「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察
2	求められる初等社会科教育（2）	「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の考察—ICTの活用—
3	初等社会科教育の特質（1）	問題解決的な学習の授業原理
4	求められる初等社会科教育（3）	「見方・考え方」について具体教材から考察
5	求められる初等社会科教育（4）	「思考・判断・表現」について具体教材から考察
6	初等社会科教育の内容（1）	学習指導要領内容の改善点の理解第3学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
7	初等社会科教育の内容（2）	学習指導要領内容の改善点の理解第4学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
8	初等社会科教育の内容（3）	学習指導要領内容の改善点の理解第5学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
9	初等社会科教育の内容（4）	学習指導要領内容の改善点の理解第6学年—ICTの活用を図った授業実践と関連—
10	初等社会科教育の特質（2）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
11	初等社会科教育の特質（3）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
12	初等社会科教育の特質（4）	問題解決的な学習の具体的な展開—教材研究に焦点を当てて—
13	初等社会科教育の新たな課題（1）	「主権者教育」・「防災教育」に関する考察—東日本大震災の復興支援との関連—
14	初等社会科教育の新たな課題（2）	「SDGs」に関する考察—総合的な学習の時間との関連—
15	社会の理解授業まとめ	授業の総括及び「授業評価アンケート」の実施

科目コード	22103		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	美術の理解		担当者名	村上 尚徳			○		
			実務経験との関連	小学校教員、文部科学省教科書調査官としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術、絵画の役割
3	美術とは何か③	美術について考える
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解（1）	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解¥n（グループワーク）
12	美術の幅広い理解（2）	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）¥n（グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解

科目コード	31400	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	学校経営と学校図書館	担当者名	浅田 栄里子			○			
		実務経験との関連	高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、課題および提出物 30%、特別課題 40%に基づき評価する。

<教科書>

朝比奈大作監修

「改訂 学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズⅡ）」

樹村房

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育法令と学校経営	授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。
2	教育法令と学校図書館	学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。
3	学校図書館と学習指導要領	学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。
4	学校図書館の機能と図書標準	学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。
5	学校図書館の運営	学校図書館運営に関わる業務を理解する。
6	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する①
7	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する②
8	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する③
9	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する①
10	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する②
11	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する③
12	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫①
13	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫②
14	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫③
15	まとめ	学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

科目コード	31401	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	学校図書館メディアの構成	担当者名	木戸 和彦／浅田 栄里子			○			
		実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）

学校図書館必携

悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望

科目コード	31403	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	読書と豊かな人間性	担当者名	浅田 栄里子			○			
		実務経験との関連	高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

<授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解することができる。¥n 2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。¥n 3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

「探究 学校図書館学」編集委員会
探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」
全国学校図書館協議会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。
2	読書教育の系譜	日本の読書教育の変遷を理解する。
3	読書指導と学校図書館	学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。
4	子どもの読書環境	子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。
5	発達段階に応じた読書指導	読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。
6	子どもと本を結ぶための方法1	読み聞かせとブックトーク、ストーリーリング
7	子どもと本を結ぶための方法2	読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書
8	子どもと本を結ぶための方法3	読書へのアニメーションとビブリオバトル
9	子どもと本を結ぶための方法4	読書会とリテラチャーサークル
10	子どもと本を結ぶための方法5	紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成
11	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。
12	読書活動の実際1	小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
13	読書活動の実際2	高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
14	読書活動の推進と司書教諭・学校司書	司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。
15	まとめ	読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。

科目コード	31402		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	小川 智勢子			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進める。毎回課題を提示する。主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25）
 探究 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館
 全国学校図書館協議会

<参考書>

文部科学省（2018/2/28）
 小学校学習指導要領解説 総則編
 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの利用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習の時間と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性と学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	司書教諭が担う役割	学習指導と学校図書館における司書教諭が担う役割について理解する。

科目コード	32305	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	理科教育法	担当者名	平松 茂			○			
		実務経験との関連	中学校教員、文部科学省国立教育政策研究所事業実施研究委員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。児童のやる気を引き出す指導技術の一つとしてKR (knowledge of result=お返し情報) も取り上げる。4～5人の小グループで模擬授業を担当し、教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用法も習得する。

<授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

<授業の方法>

第1～5回：講義の中で観察・実験を行い、授業の組み立て方や展開方法を習得する。また、模擬授業に向けて、グループを構成し、実践するテーマを決定する。第6～14回：グループごとに予備実験、指導案作成、観察・実験の準備を行い、模擬授業を公開（各回2グループ）する。実践したグループ以外は、児童役として模擬授業を受け、模擬授業の評価を行う。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 10%、 実験・観察の技能 20%、 模擬授業 20%、 学習指導案 10%、 期末試験40% 等で評価する。

<教科書>

毛利 衛・黒田玲子 他 (2020)

「新しい理科5」

東京書籍

毛利 衛・黒田玲子 他 (2020)

「新しい理科6」

東京書籍

文部科学省(2018. 2. 10)

小学校学習指導要領 (H29) 解説理科編

東洋館出版社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 物の溶け方	小学校理科の概要と授業 観察
2	理科の授業と坂元理論	授業の構造, 実験と安全, 机間指導とKR
3	理科の授業と評価の方法 ループリック	授業の評価観点、ループリックの作成と活用
4	学習指導案の構造と作成法	教材研究, 板書計画, 授業細案
5	小学校の授業展開 物の重さくらべ	授業展開をたどる、予備実験とワークシートの関係
6	模擬授業1 (1グループ)	学生の模擬授業「小学校理科6年・生命領域」
7	模擬授業2 (1グループ)	学生の模擬授業「小学校理科5年・生命領域」
8	模擬授業3 (2グループ)	学生の模擬授業「小学校理科5年・地球領域」
9	模擬授業4 (2グループ)	学生の模擬授業「小学校理科6年・地球領域」
10	模擬授業5 (2グループ)	学生の模擬授業「小学校理科5年・粒子領域」
11	模擬授業6 (2グループ)	学生の模擬授業「小学校理科6年・粒子領域」
12	模擬授業7 (2グループ)	学生の模擬授業「小学校理科5年・エネルギー領域」
13	模擬授業8 (2グループ)	学生の模擬授業「小学校理科6年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
14	模擬授業9 (2グループ)	学生の模擬授業「小学校理科3年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
15	まとめ	理科教育の今後の展開と課題

科目コード	32312	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	図画工作科教育法	担当者名	村上 尚徳			○			
		実務経験との関連	小学校教員、文部科学省教科書調査官としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート等 40%、定期試験 40%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018）
「小学校学習指導要領解説図画工作編」
日本文教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ

科目コード	51009	区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)《通年》	担当者名	小川 智勢子/安井 正郎/奥山 優/木野 正一郎/坂根 清貴/三堀 仁/千葉 照久/大崎 卓己/藤井 健太郎/内田 仁志/白石 翔/林 栄昭/練苧 千之/鈺 悠介/高橋 章二			○			
		実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。						
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

<授業の到達目標>

教育実習生としての心構えをもち、教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。教職を志す者としての資質を向上させるために、教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図るとともに、教育実習の成果と課題を自己評価することができる。

<授業の方法>

講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにした振り返りを行う。特に授業の中では、学生による模擬授業を行う中で、授業展開や教具、発問について受講者同士で議論し合いながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、教育経営学科のDP4（周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。）及びDP6（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）と関連付けられている。教育実習を通して、教育実践の中で現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養う。多様化・複雑化する社会に対応できる総合的な実践力を育むための科目である。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習の意義と心構え	教育実習の概要と意義を理解する。
2	教育実習の進め方	教育実習の手引きや実習録をもとに、実習に参加する際の注意事項を理解する。
3	研究授業（模擬授業）の方法（1）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
4	研究授業（模擬授業）の方法（2）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
5	研究授業（模擬授業）の方法（3）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
6	研究授業（模擬授業）の方法（4）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
7	研究授業（模擬授業）の方法（5）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
8	研究授業（模擬授業）の方法（6）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
9	研究授業（模擬授業）の方法（7）	個別学習、グループ学習の進め方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
10	研究授業（模擬授業）の方法（8）	個別学習、グループ学習の進め方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
11	研究授業（模擬授業）の方法（9）	授業のまとめの仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
12	研究授業（模擬授業）の方法（10）	ノート、学習プリント（ワークシート）のつくり方と活用の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
13	研究授業（模擬授業）の方法（11）	評価について※15～20人程度のグループに分かれて行う。
14	教育実習における表現教育の位置づけ方	児童とのコミュニケーション手段の1つとして、表現活動の設定の仕方を理解する。
15	教育実習のふり返り	教育実習録をもとに、実習の成果と課題を明らかにする。【事後指導】